UI の概要

ここでは、次の内容について説明します。

- UI の概要 （1 ページ）
- ワークフロー （1 ページ）
- Job Manager （5 ページ）
- ジョブの詳細 （6 ページ）
- ジョブイベントログ （8 ページ）
- Admin （9 ページ）
- ワーカー （9 ページ）

UI の概要

Crosswork Workflow Manager 1.0 では、ユーザーはグラフィカル インターフェイスを介して CWM のコア機能にアクセスできます。

CWM UI ダッシュボードには 3 つの主要な機能領域があり、左側のナビゲーションメニューからアクセスできます。

- [ワークフロー（Workflows）]：ワークフロー定義を追加、管理、および削除できます。
- [Job Manager]：追加されたワークフローを実行し、特定のワークフロー実行（ジョブ）のステータスを確認できます。
- [管理（Admin）]：ワーカーを管理できます。

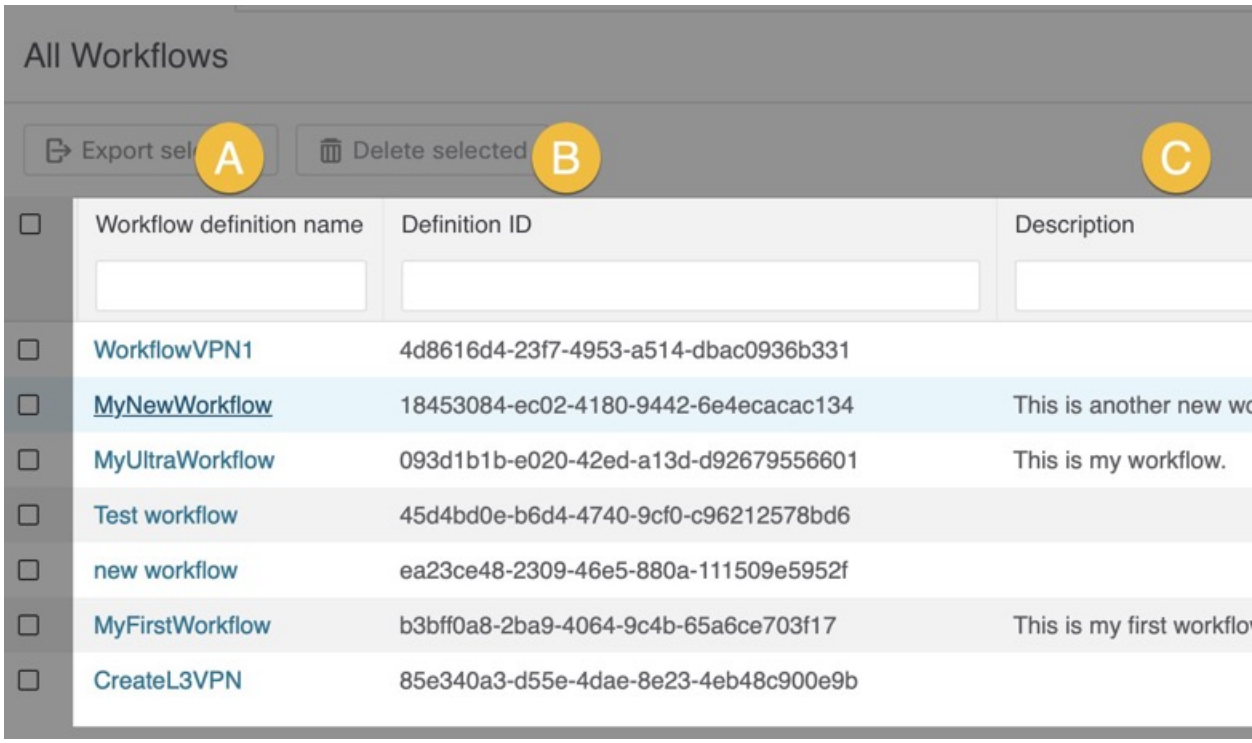
ワークフロー

メインの [ワークフロー（Workflows）] ウィンドウは、[すべてのワークフロー（All Workflows）] タブで構成されており、CWM に追加されたワークフローとともに詳細および可能なアクションが一覧表示されます。

すべてのワークフロー

[すべてのワークフロー（All Workflows）] テーブルは、次の列で構成されています。

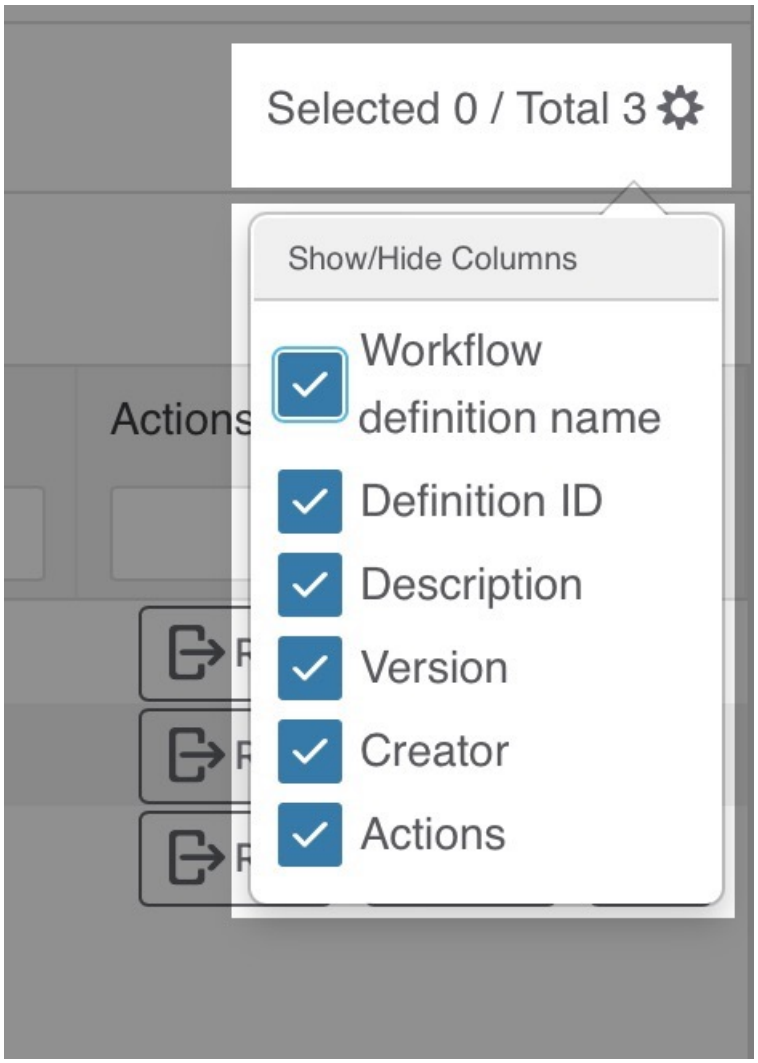
図 *1 : [*すべてのワークフロー（*All Workflows***）*]* テーブル**



- A）[ワークフロー定義名（Workflow definition name）] : ワークフローの一意の名前。
- B）[定義ID（Definition ID）] : ワークフローの作成後に自動的に割り当てられる一意の識別子。
- C）[説明（Description）] : ワークフローの機能を説明するために使用されるオプションのフィールド。
- D）[バージョン（Version）] : 現在のワークフローのバージョン番号を示し、ワークフローのバージョン履歴を追跡できます。
- E）[アクション（Actions）] : 特定のワークフローで可能なアクションを示します。
  - [実行（Run）] : 特定のワークフロー（ジョブ）の単一の実行を開始します。
  - [編集（Edit）] : 保存されたワークフローの編集を許可します。これには、ワークフロー定義に関する [詳細（Details）] タブと [コード（Code）] タブが含まれます。
  - 削除（ゴミ箱アイコン）：追加されたワークフローを CWM から削除します（このアクションは元に戻せません）。

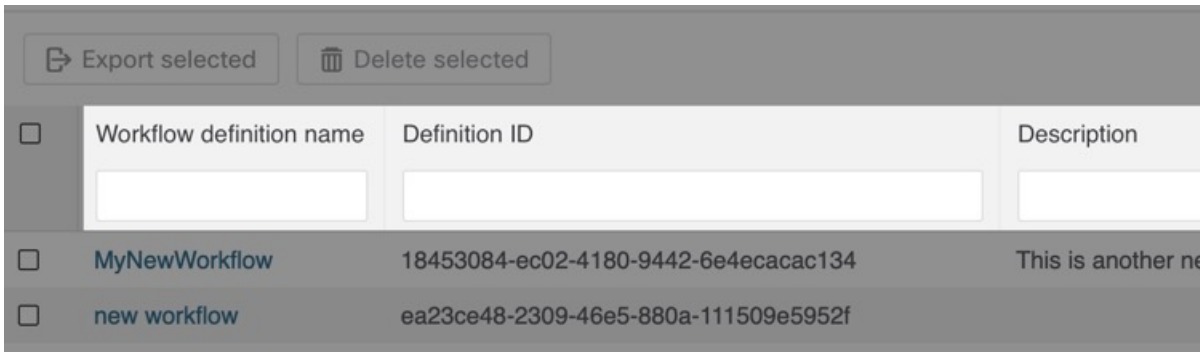
テーブルに表示される列を調整するには、テーブルの右上にある歯車アイコンを使用します。

図 *2:* 歯車アイコン



テーブルをフィルタリングするオプションを使用すると、テーブルで指定した値を検索できます。デフォルトでは、フィルタのフィールドが表示されています。右側のじょうごアイコンをクリックして、それらを非表示/再表示します。

図 *3:* フィルタオプション

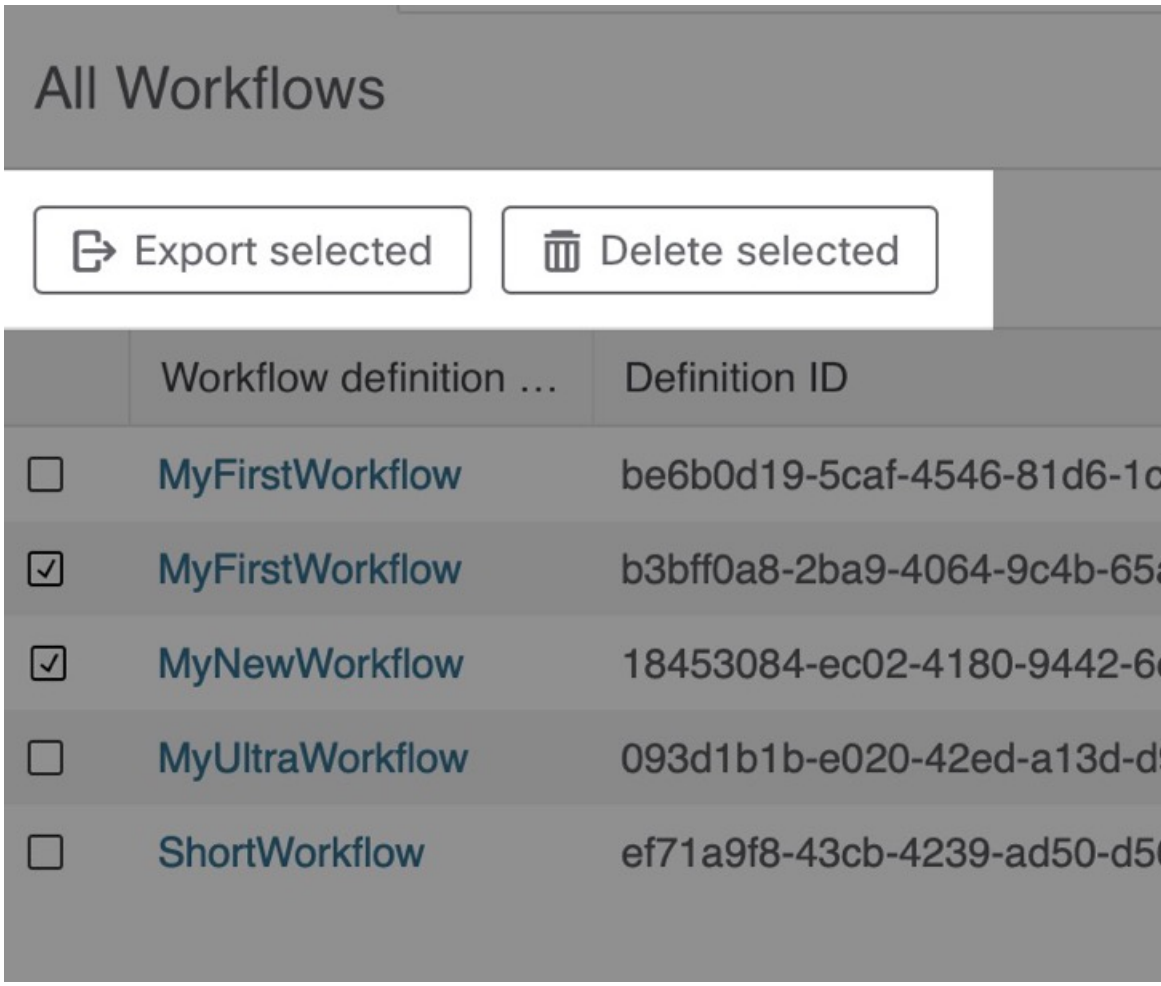


一括アクション

一度に多数のワークフローで一括アクションを実行できます。ワークフローを選択するには、[すべてのワークフロー（All Workflows）] テーブルの右側にあるチェックボックスをオンにします。次の 2 つの一括アクションを実行できます。

- [選択項目のエクスポート（Export Selected）]：選択したワークフローエントリを CSV ファイルにエクスポートします。
- [選択項目の削除（Delete Selected）]：選択したワークフローをリストおよび CWM から削除します（このアクションは元に戻せません）。

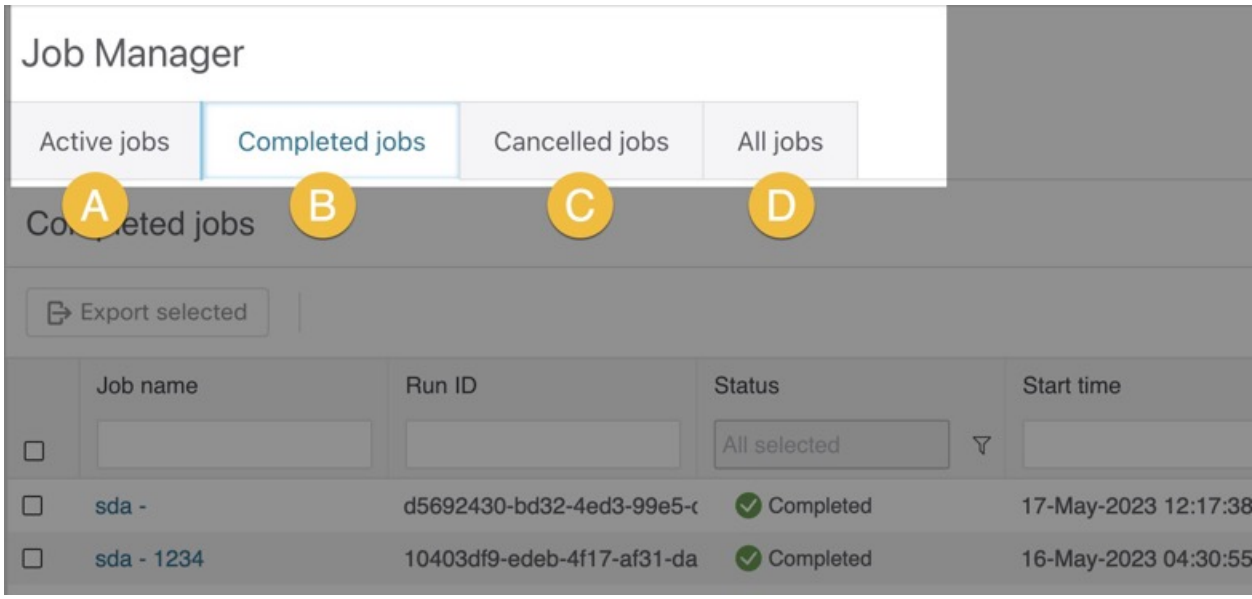
図 *4:* 一括アクション



Job Manager

Job Manager を使用すると、ジョブのステータスを確認し、実行を開始できます。メインの [Job Manager] ウィンドウは、次の 4 つのタブで構成されています。

図 *5 : Job Manager* のタブ



- A）[アクティブなジョブ（Active jobs）]：現在実行中のジョブ。
- B）[完了したジョブ（Completed jobs）]：正常に完了したジョブ。
- C）[キャンセルされたジョブ（Canceled jobs）]：ユーザーが手動で終了したジョブと、自動的に失敗したジョブ。
- D）[すべてのジョブ（All jobs）]：すべてのアクティブなジョブ、完了したジョブ、キャンセルされたジョブ。

（注） [Job Manager] ビューには、過去 24 時間に実行されたすべてのワークフロー実行が一覧表示されます。

ジョブの詳細

ステップ 1 ジョブの詳細を確認するには、[Job Manager] で適切なタブ（[アクティブなジョブ（Active jobs）]、[完了したジョブ（Completed jobs）]、[キャンセルされたジョブ（Canceled jobs）]、または [すべてのジョブ（All jobs）]）を選択します。

ステップ 2 テーブルで、確認するジョブエントリの名前をクリックします。

ステップ 3 [詳細（Details）] タブでは、特定のジョブの次のデータを確認できます。

図 *6 :* ジョブの詳細

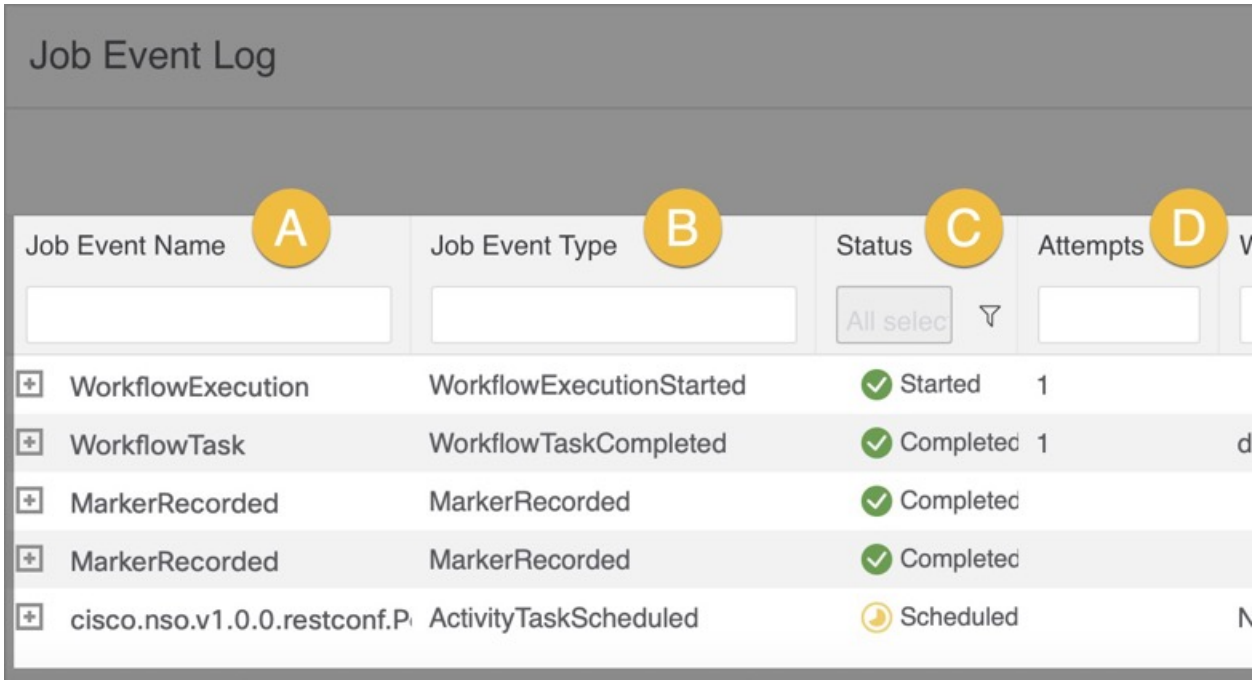
1. A）[ジョブ名（Job name）]：特定のワークフロー実行の名前。デフォルトでは、ワークフロー定義名です。
2. B）[ワークフロー定義名（Workflow definition name）]：特定のジョブを実行するために使用されるワークフロー定義の名前。
3. C）[ワーカー（Worker）]：ワークフロー定義に割り当てられたワーカー。
4. D）[実行ID（Run ID）]：ワークフロー実行の一意の識別子。
5. E）[ワークフロー定義ID（Workflow definition ID）]：ワークフロー定義の一意の識別子。同じワークフローのすべての実行で同じになります。
6. F）[バージョン（Version）]：実行されたワークフロー定義のバージョン。
7. G）[試行（Attempts）]：ワークフローを正常に実行するために必要だった試行回数を示します。最大試行回数は、ワークフロー定義によって制限できます。
8. H）[終了時間（Close time）]：ワークフローの実行が終了した日時（例：`05-May-2023 03:59:25 PM CEST`）。まだ実行中の場合、または失敗やキャンセルとなった場合は、代わりに適切なステータスが表示されます。
9. I）[開始時刻（Start time）]：ワークフローの実行が開始された日時（例：`05-May-2023 02:59:25 PM CEST`）。

ジョブイベントログ

ジョブイベントログには、ワークフロー定義の実行中にワークフローエンジンが実行する一連のイベントがリストされます。

[ジョブイベントログ（Job Event Log）] テーブルは、次の列で構成されます。

図 7: ジョブイベントログ



- A）[ジョブイベント名（Job Event Name）]：CWM に固有のイベントの名前（例：WorkflowExecution）。
- B）[ジョブイベントタイプ（Job Event Type）]：ワークフローエンジンで使用されるイベントのタイプ（例：WorkflowExecutionStarted）。
- C）[ステータス（Status）]：イベントの実行ステータス。
- D）[試行（Attempts）]：タスクを完了するために実行された試行回数。
- E）[ワーカー（Worker）]：タスクを実行するワーカーの名前。
- F）[開始時刻（Start Time）]：イベントの実行が開始された日時（例：05-May-2023 03:59:25 PM CEST）。
- G）[終了時刻（Close Time）]：イベントの実行が終了した日時。

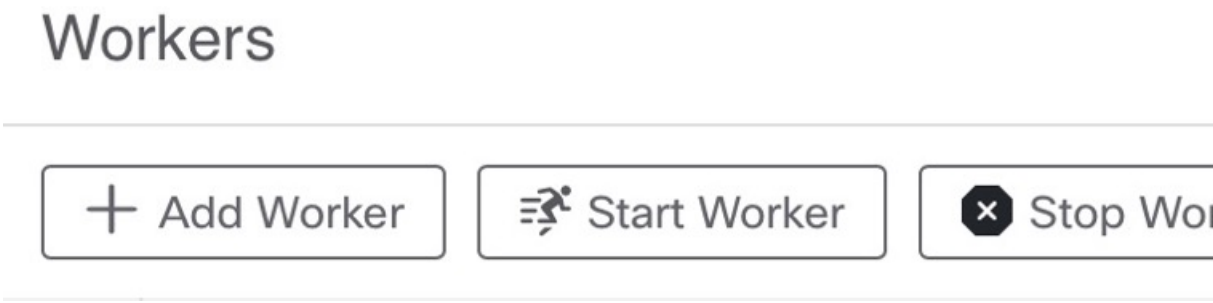
Admin

[管理（Admin）] タブでは、ワーカーを追加および管理し、ワーカーにアクティビティを割り当てることができます。

ワーカー

メインの [ワーカー（Workers）] ウィンドウには、既存のワーカーがテーブルにすべてリストされ、上にアクションボタンが表示されます。

図 *8 :* ワーカーアクションボタン



- [ワーカーの追加（Add Worker）] : 新しいワーカーを作成し、すでにインストールされているアダプタからそのワーカーにアクティビティを割り当てることができます。
- [ワーカーの開始（Start Worker）] : ワーカーを開始すると、ワーカーは割り当てられたタスクを実行でき、ワーカーのステータスが実行中に変更されます。
- [ワーカーの停止（Stop Worker）] : ワーカーを停止すると、ワーカーは保留中のアクションを実行できますが、新しいタスクを受け入れる機能はブロックされます。[ワーカーの停止（Stop Worker）] ボタンをクリックすると、[ワーカーの停止（Stop worker(s)）] 確認モーダルが表示されます。ワーカーが進行中のタスクをアクティブに実行している場合、[強制停止（Force stop）] チェックボックスをオンにしない限り、そのタスクを停止することはできません。このアクションは、タスクを実行しているかどうかにかかわらずワーカーを停止するため、進行中のジョブの失敗を引き起こす可能性があります。
- [削除（Delete）] : ワーカーを完全に削除します（このアクションは元に戻せません）。ワーカーが実行中の場合は、削除する前に強制的に停止します。
- [選択項目のエクスポート（Export selected）] : 選択したワーカーの詳細（ワーカー名、ステータス、アクティビティ数など）を含む CSV ファイルをダウンロードします。

[ワーカー（Workers）] テーブルには次の列があります。

図 *9 : [*ワーカー（*Workers*）*]* テーブル

- [ワーカー名（Worker Name）]：一意のワーカー名。作成後は変更できません。
- [ステータス（Status）]：ワーカーには、CWM UI に表示される 3 つのステータスがあります。
  - [初期化済み（Initialized）]：作成後のワーカーステータス（すぐに開始することを選択しない場合）。
  - [実行中（Running）]：タスクを実行可能な、開始済みのワーカーを示します。
  - [停止（Stopped）]：タスクを実行できない、停止したワーカーを示します。
- [アクティビティの数（Nr of activities）]：ワーカーに割り当てられているアダプタのアクティビティの数を示します。

翻訳について
このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。